



2023年3月期 決算短信(日本基準)(連結)

2023年5月12日

上場会社名 株式会社 安楽亭

上場取引所 東

コード番号 7562 URL <http://www.anrakutei.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柳 先

問合せ先責任者 (役職名) 総務人事部 次長 (氏名) 町田 英之

TEL 048-859-0555

定時株主総会開催予定日 2023年6月29日

有価証券報告書提出予定日 2023年6月30日

配当支払開始予定日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期の連結業績(2022年4月1日～2023年3月31日)

(1) 連結経営成績

(％表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期	28,566	21.7	102		248	71.5	253	
2022年3月期	23,479	11.5	2,414		871		482	

(注) 包括利益 2023年3月期 248百万円 (%) 2022年3月期 480百万円 (%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2023年3月期	118.74		5.3	1.2	0.4
2022年3月期	225.84		10.4	3.9	10.3

(参考) 持分法投資損益 2023年3月期 百万円 2022年3月期 百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期	20,051	4,621	23.0	2,161.89
2022年3月期	21,707	4,871	22.4	2,278.56

(参考) 自己資本 2023年3月期 4,621百万円 2022年3月期 4,871百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2023年3月期	664	253	1,764	2,391
2022年3月期	1,204	166	12	3,742

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2022年3月期		0.00		0.00	0.00			
2023年3月期		0.00		0.00	0.00			
2024年3月期(予想)		0.00		0.00	0.00			

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	13,907	0.0	240		228		149		69.70
通期	27,742	2.9	411		388	56.5	275		128.65

注記事項

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
 新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 以外の会計方針の変更 : 無
 会計上の見積りの変更 : 無
 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期	2,139,434 株	2022年3月期	2,139,434 株
期末自己株式数	2023年3月期	1,806 株	2022年3月期	1,617 株
期中平均株式数	2023年3月期	2,137,707 株	2022年3月期	2,137,879 株

(参考)個別業績の概要

2023年3月期の個別業績(2022年4月1日～2023年3月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期	11,327	17.6	432		292		638	
2022年3月期	9,635	10.0	1,444		21		144	

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期	298.81	
2022年3月期	67.74	

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期	11,071	3,683	33.3	1,723.29
2022年3月期	12,645	4,315	34.1	2,018.82

(参考) 自己資本 2023年3月期 3,683百万円 2022年3月期 4,315百万円

決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 経営成績等の概況(4) 今後の見通し」をご覧ください。

(決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法)

当社は、2023年5月26日(金)に機関投資家及びアナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算説明会資料については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 今後の見通し	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	4
3. 連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 連結貸借対照表	5
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	7
(3) 連結株主資本等変動計算書	9
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	11
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(会計方針の変更)	13
(セグメント情報等)	13
(1株当たり情報)	15
(重要な後発事象)	15

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症にかかる行動制限が緩和されたことで経済社会活動の正常化が期待された一方、エネルギーや物流を含む世界的な諸コスト高騰による物価上昇、ウクライナ情勢等の地政学リスク、さらに急速な円安の進行等により不安定な情勢が続き、景気の先行きが不透明な状況で推移しました。

外食産業におきましても、感染拡大第7波・第8波の断続的な発生や、物価上昇に対する消費者の生活防衛意識の高まりを受け、客足が完全には回復せず厳しい経営環境が続きました。

このような環境のもと、当社グループは、経営理念である「食を通じて地域社会の豊かな生活文化の向上に貢献する」に基づき、お客様の基本ニーズである「安全・安心」に徹底してこだわった「自然肉100%」の商品提供を堅持するとともに、店内の衛生管理を徹底し、お客様に安心してご来店いただける環境づくりに注力してまいりました。また、消費者の意識・行動の変容を的確にとらえて集客力を向上させるべく、新メニュー開発やフェア企画の実施等に積極的に取り組みました。

店舗展開においては、「安楽亭」等の既存4店舗を「ステーキのどん」や「花炎亭」に業態転換し、グループ内のブランド資産を活用した業態最適化を進めました。加えて、採算が悪化していた店舗を中心に、当期間においてグループ計28店舗を閉店いたしました。

また、DXや業務改善を推進することで店舗人員体制の最適化や本社間接経費の削減を図り、コスト圧縮と生産性向上による収益基盤安定に努めました。同時に、販売戦略においてはメニュー価格改定を適宜行い、商品価値と収益力の維持向上を図りました。

以上の結果、当連結会計年度の業績につきましては、売上高285億66百万円（対前年同期比21.7%増）、営業損失1億2百万円（前年同期は営業損失24億14百万円）、経常利益2億48百万円（対前年同期比71.5%減）、親会社株主に帰属する当期純損失2億53百万円（前年同期は親会社株主に帰属する当期純利益4億82百万円）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① 安楽亭業態

安楽亭業態の当連結会計年度末の店舗数は157店舗であります。内訳は直営110店舗、暖簾13店舗、FC34店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、当社グループ創業以来のポリシーである「自然肉」ならではの美味しさを消費者にダイレクトに伝える新メニューとして、分厚いカット、芳醇な肉の旨味と食べ応えを特長とする「ワイルドカルビ」及び「ワイルドロース」を販売開始いたしました。また、人気の食べ放題については、既成のプランに上位コースの7種の肉の食べ放題を追加できる「肉強化オプション」、「食べ放題+定食」を組み合わせせた「食べ放題定食」、「肉定量+サイドメニュー食べ放題」の「ピタ放題」など、様々なニーズに合わせてメニューの多様化を図りました。

さらに、顧客サービスと店舗オペレーションの双方に改善をもたらすDXの取り組みとして「スマホオーダーシステム」をほぼ全店に導入し、お客様のスマートフォンでも商品注文をさせていただけるようにしたほか、ピークタイムの運営効率向上のため「配膳ロボット」を独自開発し、当期において15店舗に導入しました。

以上の結果、安楽亭業態の当連結会計年度の売上高は105億43百万円（対前年同期比16.5%増）となり、セグメント利益（営業利益）は85百万円（前年同期はセグメント損失6億90百万円）となりました。

② 七輪房業態

七輪房業態の当連結会計年度末の店舗数は24店舗であります。内訳は直営19店舗、暖簾2店舗、FC3店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、「やわらか上タンと秋の味覚フェア」「九州うまいものフェア」「春野菜春焼肉フェア」等、七輪房の多様で上質な肉の魅力を季節感豊かにアピールするフェア施策を積極的に実施してまいりました。

以上の結果、七輪房業態の当連結会計年度の売上高は18億15百万円（対前年同期比13.0%増）となり、セグメント利益（営業利益）は13百万円（前年同期はセグメント損失1億74百万円）となりました。

③ アークミール業態

アークミール業態の当連結会計年度末の店舗数は131店舗であります。内訳は直営129店舗、FC2店舗であります。アークミール業態には、「ステーキのどん」、「しゃぶしゃぶどん亭」、「フォルクス（ステーキ）」を含んでおります。なお、当累計期間において、安楽亭業態1店舗、その他業態2店舗の計3店舗を、「ステーキのどん」に転換し、一方、「donイタリアーノ（イタリアン）」1店舗をその他業態である「花炎亭（焼肉）」に転換いたしました。

販売促進及び商品開発につきましては、「ステーキのどん」、「しゃぶしゃぶどん亭」、「フォルクス」の主要各業態において、積極的に来店促進の施策を展開してまいりました。「WILDスペアリブ」「どんタワーハンバーグ」販売（ステーキのどん）、「黒酢酸辣湯しゃぶしゃぶフェア」（どん亭）、「店舗限定ステーキ食べ放題」「彩り温野菜のバーニャカウダステーキフェア」（フォルクス）等、多彩なメニューや店舗体験の楽しさをアピールする企画を実施いたしました。

以上の結果、アークミール業態の当連結会計年度の売上高は157億97百万円（対前年同期比25.9%増）となり、セグメント利益（営業利益）は2億89百万円（前年同期はセグメント損失10億29百万円）となりました。

④ その他業態

その他業態の当連結会計年度末の店舗数は7店舗であります。内訳は直営5店舗、FC2店舗であります。なお、その他業態には、「からくに屋（焼肉）」、「花炎亭（焼肉）」、「上海菜館（中華）」、「カフェビーンズ（喫茶）」、「安楽亭ベトナム（焼肉）」を含んでおります。

以上の結果、その他業態の当連結会計年度の売上高は4億10百万円（対前年同期比46.9%増）となり、セグメント損失（営業損失）は34百万円（前年同期はセグメント損失74百万円）となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

当連結会計年度末の資産は、前連結会計年度末に比べ16億13百万円減少し、200億51百万円となりました。これは、現金及び預金が13億50百万円減少したこと及び減価償却等により有形固定資産が3億44百万円減少したこと等が要因です。負債は、前連結会計年度末に比べ13億63百万円減少し、154億30百万円となりました。これは、借入金の減少等が要因です。純資産は、前連結会計年度末に比べ2億49百万円減少し、46億21百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する当期純損失の計上等が要因です。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は23億91百万円と、前年同期と比べ13億50百万円（対前年同期比36.1%）の減少となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純損失の計上1億17百万円、減価償却費の計上7億66百万円、未払消費税等の増加額4億52百万円等により6億64百万円の収入となりました。前年同期は12億4百万円の支出でありました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出4億31百万円、無形固定資産の取得による支出80百万円、敷金及び保証金の回収による収入1億68百万円等により2億53百万円の支出となりました。前年同期は1億66百万円の支出であり、前年同期と比べて87百万円の支出の増加となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済による支出13億74百万円、割賦債務の返済による支出3億11百万円等により17億64百万円の支出となりました。前年同期は12百万円の支出であり、前年同期と比べて17億52百万円の支出の増加となりました。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
自己資本比率(%)	39.5	25.2	18.7	22.4	23.0
時価ベースの自己資本比率(%)	67.6	45.7	44.9	62.2	75.6
キャッシュ・フロー対有利子負債比率(%)	14.3	39.2	19.8	△10.0	15.8
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	6.6	7.7	5.5	△9.8	5.4

(注) 1. 自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー／利払い

- 各指標は、いずれも連結ベースの財務数値により算出しております。
- 株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式数（自己株式控除後）により算出しております。
- 営業キャッシュ・フローは連結キャッシュ・フロー計算書の「営業活動によるキャッシュ・フロー」を使用しております。
有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っているすべての負債を対象としております。また、利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の「利息の支払額」を使用しております。

(4) 今後の見通し

今後の見通しにつきましては、3年超に及んだ新型コロナウイルス感染症の影響が縮小し、世界的に経済活動が急速に回復に向かう一方、食材価格やエネルギーコスト等の物価高騰による消費者の生活防衛意識は依然として強く、個人消費への影響が当面続いていくものと予測されます。コロナ禍を経て、また、このような経済環境のもと、消費者の外出に関する意識が変化し、飲食店に求められる価値水準が一層高まるなかで、外食事業者は、提供サービス・顧客体験を今まで以上に進化させ、ニーズに応じていく必要があります。

当社グループは、こうした大きな環境変化を成長のチャンスととらえ、経営資源を最大限に活かし、既存収益モデルの改革と新たな収益機会の創出に積極的にチャレンジしてまいります。新たな時代の消費行動に適応する業態開発を推し進めること、また、DXの推進により高付加価値・低コストの収益基盤を形成すること、そしてこれらの取り組みを実現するための多様な人材の確保と育成を進めること、今期は、これらのテーマに対して包括的に注力し、中長期的な成長と飛躍に向けた基盤作りを進めてまいります。

当社グループの祖業である「安楽亭」は、今年創業60周年を迎えます。今期を構造改革の一年と位置づけ、そして、当社グループの不変の経営理念である、「食を通じて地域社会の豊かな生活文化の向上に貢献する」の実現のため、役職員全員、さらなる企業価値の向上に向け邁進してまいります。

なお、通期の連結業績見通しにつきましては、売上高277億42百万円、営業利益4億11百万円、経常利益3億88百万円、親会社株主に帰属する当期純利益2億75百万円を見込んでおります。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループの利害関係者の多くは、国内の株主、債権者、取引先等であり、海外からの資金調達の実現性が乏しいため、会計基準につきましては日本基準を適用しております。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,948,393	2,597,664
売掛金	890,003	1,310,690
商品及び製品	584,421	622,297
仕掛品	2,869	5,330
原材料及び貯蔵品	1,045,491	1,096,972
前払費用	371,265	456,027
未収消費税等	48,876	—
その他	281,946	115,636
貸倒引当金	△4,917	△4,917
流動資産合計	7,168,351	6,199,701
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	18,378,631	17,488,632
減価償却累計額	△15,115,697	△14,334,835
建物及び構築物(純額)	3,262,934	3,153,797
機械装置及び運搬具	366,353	332,268
減価償却累計額	△287,799	△273,286
機械装置及び運搬具(純額)	78,554	58,982
工具、器具及び備品	4,809,659	4,679,767
減価償却累計額	△4,368,134	△4,299,928
工具、器具及び備品(純額)	441,525	379,839
土地	6,080,942	6,080,942
リース資産	1,083,723	930,235
減価償却累計額	△959,501	△850,096
リース資産(純額)	124,221	80,138
建設仮勘定	132,790	23,154
有形固定資産合計	10,120,968	9,776,855
無形固定資産		
のれん	24,267	12,133
その他	503,657	533,838
無形固定資産合計	527,925	545,972
投資その他の資産		
投資有価証券	144,644	150,809
長期貸付金	8,475	1,885
長期前払費用	265,852	85,575
繰延税金資産	205,870	165,834
敷金及び保証金	3,218,505	3,123,744
その他	31,078	27,998
貸倒引当金	△26,735	△26,721
投資その他の資産合計	3,847,691	3,529,126
固定資産合計	14,496,584	13,851,954
資産合計	21,664,935	20,051,656

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	924,915	940,679
短期借入金	3,697,000	3,622,200
1年内返済予定の長期借入金	1,212,580	1,492,056
リース債務	57,864	36,693
割賦未払金	300,006	301,804
未払金	425,147	321,709
設備関係未払金	163,927	67,650
未払費用	865,363	823,397
未払法人税等	251,791	100,338
未払消費税等	43,890	447,450
賞与引当金	116,686	156,200
転貸損失引当金	9,539	—
資産除去債務	22,998	7,782
その他	371,335	422,138
流動負債合計	8,463,045	8,740,100
固定負債		
長期借入金	6,052,564	4,448,644
リース債務	151,232	115,089
長期割賦未払金	733,288	650,943
繰延税金負債	186,189	185,180
役員退職慰労引当金	129,342	142,370
退職給付に係る負債	432,798	441,669
資産除去債務	383,950	351,974
その他	261,385	354,374
固定負債合計	8,330,753	6,690,246
負債合計	16,793,799	15,430,346
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,182,385	3,182,385
資本剰余金	2,472,098	2,472,098
利益剰余金	△798,241	△1,052,073
自己株式	△9,065	△10,349
株主資本合計	4,847,177	4,592,061
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12,642	19,815
為替換算調整勘定	6,294	11,434
退職給付に係る調整累計額	5,021	△2,002
その他の包括利益累計額合計	23,958	29,248
純資産合計	4,871,135	4,621,309
負債純資産合計	21,664,935	20,051,656

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
売上高	23,479,477	28,566,891
売上原価	9,011,455	10,752,943
売上総利益	14,468,022	17,813,947
販売費及び一般管理費	16,882,221	17,916,622
営業損失(△)	△2,414,199	△102,675
営業外収益		
受取利息	3,557	3,158
受取配当金	2,652	2,846
受取地代家賃	65,446	47,151
為替差益	2,379	232
助成金収入	3,492,876	505,821
その他	36,640	27,049
営業外収益合計	3,603,552	586,260
営業外費用		
支払利息	120,557	125,853
賃貸収入原価	23,115	6,432
支払手数料	169,966	100,192
その他	3,798	2,919
営業外費用合計	317,437	235,397
経常利益	871,915	248,186
特別利益		
固定資産売却益	3,336	3,226
受取補償金	120,000	—
特別利益合計	123,336	3,226
特別損失		
固定資産除却損	25,129	11,582
減損損失	181,987	245,728
賃貸借契約解約損	11,557	112,094
特別損失合計	218,674	369,404
税金等調整前当期純利益 又は税金等調整前当期純損失(△)	776,576	△117,991
法人税、住民税及び事業税	228,134	92,253
法人税等調整額	65,616	43,587
法人税等合計	293,750	135,840
当期純利益又は当期純損失(△)	482,826	△253,831
親会社株主に帰属する当期純利益 又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)	482,826	△253,831

連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
当期純利益又は当期純損失 (△)	482,826	△253,831
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3,766	7,173
為替換算調整勘定	4,882	5,140
退職給付に係る調整額	△3,204	△7,024
その他の包括利益合計	△2,088	5,289
包括利益	480,738	△248,542
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	480,738	△248,542

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	3,182,385	2,472,098	△1,281,067	△8,260	4,365,155
当期変動額					
親会社株主に帰属する当期純利益			482,826		482,826
自己株式の取得				△804	△804
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	482,826	△804	482,021
当期末残高	3,182,385	2,472,098	△798,241	△9,065	4,847,177

	その他の包括利益累計額				純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	16,409	1,411	8,226	26,047	4,391,202
当期変動額					
親会社株主に帰属する当期純利益					482,826
自己株式の取得					△804
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△3,766	4,882	△3,204	△2,088	△2,088
当期変動額合計	△3,766	4,882	△3,204	△2,088	479,933
当期末残高	12,642	6,294	5,021	23,958	4,871,135

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	3,182,385	2,472,098	△798,241	△9,065	4,847,177
当期変動額					
親会社株主に帰属する当期純損失(△)			△253,831		△253,831
自己株式の取得				△1,283	△1,283
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	△253,831	△1,283	△255,115
当期末残高	3,182,385	2,472,098	△1,052,073	△10,349	4,592,061

	その他の包括利益累計額				純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累 計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	12,642	6,294	5,021	23,958	4,871,135
当期変動額					
親会社株主に帰属する当期純損失(△)					△253,831
自己株式の取得					△1,283
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	7,173	5,140	△7,024	5,289	5,289
当期変動額合計	7,173	5,140	△7,024	5,289	△249,826
当期末残高	19,815	11,434	△2,002	29,248	4,621,309

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益 又は税金等調整前当期純損失 (△)	776,576	△117,991
減価償却費	789,332	766,416
減損損失	181,987	245,728
のれん償却額	22,804	12,133
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△26	△14
賞与引当金の増減額 (△は減少)	6,977	39,513
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	14,740	13,027
転貸損失引当金の増減額 (△は減少)	△13,297	△9,539
店舗閉鎖損失引当金の増減額 (△は減少)	△47,866	1,685
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△25,442	△1,705
受取利息及び受取配当金	△6,210	△6,005
助成金収入	△3,492,876	△505,821
支払利息	120,557	125,853
為替差損益 (△は益)	△2,379	△232
固定資産売却損益 (△は益)	△3,336	△3,226
受取補償金	△120,000	—
固定資産除却損	25,129	11,582
賃貸借契約解約損	11,557	112,094
売上債権の増減額 (△は増加)	△100,258	△420,687
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△220,992	△91,818
前渡金の増減額 (△は増加)	9,690	485
仕入債務の増減額 (△は減少)	42,050	15,763
未払金の増減額 (△は減少)	△20,734	△118,198
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△1,080,336	452,436
未払費用の増減額 (△は減少)	△805,155	△41,753
預り金の増減額 (△は減少)	△501,489	24,521
前受収益の増減額 (△は減少)	△66,648	26,569
その他	△197,254	△9,570
小計	△4,702,899	521,247
利息及び配当金の受取額	5,281	5,200
助成金の受取額	3,722,171	626,446
利息の支払額	△123,149	△123,578
補償金の受取額	120,000	—
店舗閉鎖に伴う支払額	△11,557	△84,779
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△213,902	△279,795
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,204,057	664,740

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△325,657	△431,913
有形固定資産の除却による支出	—	△500
有形固定資産の売却による収入	3,336	3,226
無形固定資産の取得による支出	△74,839	△80,887
敷金及び保証金の差入による支出	△10,427	△7,489
敷金及び保証金の回収による収入	169,835	168,250
預り保証金の返還による支出	△11,200	△10,427
預り保証金の受入による収入	—	8,000
貸付金の回収による収入	1,802	1,328
投資その他の資産の増減額 (△は増加)	80,518	96,486
投資活動によるキャッシュ・フロー	△166,631	△253,925
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	1,297,000	△74,800
長期借入れによる収入	1,270,000	50,000
長期借入金の返済による支出	△2,262,533	△1,374,444
割賦債務の返済による支出	△242,119	△311,129
リース債務の返済による支出	△73,566	△52,906
自己株式の取得による支出	△804	△1,283
財務活動によるキャッシュ・フロー	△12,024	△1,764,563
現金及び現金同等物に係る換算差額	9,101	3,016
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,373,610	△1,350,732
現金及び現金同等物の期首残高	5,116,119	3,742,508
現金及び現金同等物の期末残高	3,742,508	2,391,775

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当連結会計年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる、連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループはレストラン事業における焼肉レストランを主要事業として、ブランドごとの包括的な事業戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って、当社グループは焼肉レストランの主要業態「安楽亭業態」、「七輪房業態」に加え、「アークミール」及び「その他業態」の4つを報告セグメントとしております。

「安楽亭業態」は、郊外型で開放的な空間での焼肉をリーズナブルな価格で提供しております。「七輪房業態」は、焼肉部門第二の核として「安楽亭業態」より客単価の高い設定で、個室を多く配置し、落ち着いた空間での食事を提供しております。「アークミール」は「ステーキのどん」、「しゃぶしゃぶどん亭」、「フォルクス(ステーキ)」を含んでおります。「その他業態」は、「えんらく(焼肉食べ放題)」、「からくに屋(焼肉)」、「花炎亭(焼肉)」、「春秋亭(和食)」、「上海菜館(中華)」、「カフェビーンズ(喫茶)」、「安楽亭ベトナム(焼肉)」を含んでおります。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

当連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注)1	連結財務諸表 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	アークミール	その他業態	計			
売上高								
外部顧客への 売上高	9,047,152	1,606,582	12,546,383	279,358	23,479,477	23,479,477	—	23,479,477
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	9,047,152	1,606,582	12,546,383	279,358	23,479,477	23,479,477	—	23,479,477
セグメント損失 (△)	△690,715	△174,669	△1,029,011	△74,505	△1,968,902	△1,968,902	△445,296	△2,414,199
セグメント資産	11,648,291	1,346,601	7,866,822	369,046	21,230,761	21,230,761	476,752	21,707,514
その他の項目								
減価償却費	355,144	53,070	326,222	28,994	763,431	763,431	25,901	789,332
のれん償却額	19,667	—	—	3,137	22,804	22,804	—	22,804
有形固定資産 及び無形固定 資産の増加額	212,706	23,639	368,979	27,105	632,430	632,430	11,167	643,598

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

(1) セグメント損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(2) セグメント資産の調整額476,752千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。

(3) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額11,167千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。

2. セグメント損失は、連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注)1	連結財務諸表 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	アークミール	その他業態	計			
売上高								
外部顧客への 売上高	10,543,743	1,815,617	15,797,278	410,251	28,566,891	28,566,891	—	28,566,891
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	10,543,743	1,815,617	15,797,278	410,251	28,566,891	28,566,891	—	28,566,891
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	85,269	13,497	289,585	△34,308	354,043	354,043	△456,719	△102,675
セグメント資産	10,608,849	1,110,882	7,477,058	386,804	19,583,595	19,583,595	468,060	20,051,656
その他の項目								
減価償却費	315,149	45,929	334,755	28,206	724,041	724,041	42,374	766,416
のれん償却額	12,133	—	—	—	12,133	12,133	—	12,133
有形固定資産 及び無形固定 資産の増加額	231,233	48,759	467,033	71,188	818,214	818,214	3,133	821,348

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

(1) セグメント利益又はセグメント損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(2) セグメント資産の調整額468,060千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。

(3) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額3,133千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
1株当たり純資産額	2,278.56円	2,161.89円
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失(△)	225.84円	△118.74円

(注) 1. 前連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。当連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)(千円)	482,826	△253,831
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)(千円)	482,826	△253,831
普通株式の期中平均株式数(株)	2,137,879	2,137,707

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度末 (2022年3月31日)	当連結会計年度末 (2023年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	4,871,135	4,621,309
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	—	—
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	4,871,135	4,621,309
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の 数(株)	2,137,817	2,137,628

(重要な後発事象)

該当事項はありません。